

野生植物研究所だより

● 早春の花 ●

磨の上では春に入ったのですが毎日のように雪が降り春はまだまだかなと思われる日が続いていましたが、2月8日の河北新報の「声の交差点」の欄に「庭はもう春」というタイトルで亙理町の馬場洋子さんが撮影したフクジュソウの花の写真が載っていました。今年の冬の寒さを思うと亙理町は古川と比べてかなり暖かいのだろうと感じました。

【マンサクの花】

春早くフクジュソウの花が咲く時期とほぼ同じ頃に咲く植物にマンサクがあります。古川では早い時期で2月半ば過ぎから3月にかけて咲きますが、寒さが厳しかった今年はいつマンサクの花が咲き出すのか楽しみです。

マンサクは北海道南部から本州、四国、九州に生育しています。山地にはえ秋になると葉が紅葉し落葉する高さが5～6mの樹木です。普通マンサクのように落葉し、あまり高くない木を落葉小高木とっています。小野田や宮崎、色麻などの山には普通にみられます。花は2月から3月にかけて咲きますが、小野田や宮崎、色麻の山手では普通3月半ば頃より花がみられます。そのころ加美町では、まだマンサクの根元には雪があります。

花は、葉の出る前に前年の枝の節に数個ずつ集まって開きます。花弁(はなびら)は4枚で細長く黄色い色をしています。マンサクという名の由来は、二とおりの説があります。一つは豊年満作の満作で、枝いっぱいにつけた様子を穀物が豊かに実った姿にたとえたことからついたと言われています。もう一つは、マンサクは早春、真っ先に花を咲かせることから、・・まず咲く・・マンサクという名がつけられたと言われています。

宮城県の山に自生しているマンサクには、2種類あります。わりと低いところに見られるのはマンサクですが、ブナ帯に入る高い所に自生しているマンサクは、葉のかたちが丸みを帯びて厚みのあるマルバマンサクといわれるもので、日本海側に多く見られます。実は、小野田、宮崎、色麻の山手に見られるマンサクは、マルバマンサクという種類に該当します。

近年、庭にもマンサクを植える家庭が増えています。春早く花を楽しむことができるのはもちろんですが、葉もきれいな樹木です。大木にもなりませんので、是非植えてみてはいかがでしょうか。

今年例年よりもウメやマンサク、フクジュソウ、ツバキなどの花がかなり遅れて開花するのではないかと考えています。いろいろな花が咲き出す春が待ち遠しく思われます。

【早春のフキノトウ摘み】

今年に入ってからフキノトウの天ぷら、フキ味噌等を食べた方がいらっしゃるでしょうか。

当研究所所長は、大変天気の良いポカポカ陽気の日、山手の開田からフキノトウを摘んできて、一足早く春の香りをいただいているのです。今の時期のフキノトウ摘みはフキの枯れた葉を見つけることから始まります。枯れた葉を見つけ上から眺めていてもフキノトウを目にすることは出来ません。まだ枯れた草のなかに隠れていたり、頭を出していたとしても周囲の枯草と色がよく似ているからです。フキの葉は乾燥するとだいぶ縮み、黒っぽい色に変わります。また雪などに押しつぶされたりしてクシャクシャ状態になっています。はじめは見分けるのが大変ですが、なれるとそれほど難しいことはありません。葉を見つけたら葉の柄をたどってフキが出ていた根元を探し出します。そこにはおおよそ7割かたフキノトウが出ています。3月に入れば花が咲き出すものもあり、誰でも見つけることができるようになります。それを待たなくても春の香りを楽しむことができます。是非早春のフキノトウ摘みに挑戦してみてください。



【連絡先】 〒989-6252 宮城県古川市荒谷字簗ノ子町 12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/> E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>